

# 福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

TBSラジオ『MY!のきくわーニング』取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049-230-1111 (FAX230-1112)

福音の園 Gospelgarden は、有限会社シヤロンの商標。

教職5年経験者・社会貢献活動体験研修 参加者の声

## 自分の心のアンテナを高くして

「私には、何ができるのだろう」「利用者の皆さんにどう接すればよいのだろう」と最初は、戸惑いと不安でいっぱいだった。でも、その心を溶かしてくれたのが利用者の方の「ありがとう」「すみません」の言葉だった。手を引いたり、物を渡したり、どんな小さな支援に対しても、感謝の声をかけて下さる。利用者の方は意識していないのかもしれないが、その何気ない一言で、人の心は動くのだと言葉の大切さと重みを痛感した。また、お風呂の介助の際、洋服の脱ぎ着を手伝わせていただいたが、「しゃがんで利用者の方と同じ目線で」とご指導いただいた。利用者の方の目線、立場に立つことを教えていただいた。この感性を残り2日間学びたい。へ一日目の反省・感想より

まず、スタッフの方が利用者の方々、個々を熟知している。当たり前かもしれないが、驚かされた。我々も、学級を経営する上で、まず「児童理解」だと言われる。個々が満足し、精神的な欲求を満たすためには、

私たち教師が一人一人の特性と個性を把握することの重要性を強く肌で感じた。また、ホーム長のご講義の中に「介護の仕事は『感情労働』だ」というお話があった。教師の仕事も子ども心に寄り添う『感情労働』だ。『ケアの質』はスタッフの『感性の質』に通じる」というお話もあったが、まさに我々も『教育活動の質』は『教師の質』と言える。“人の心に寄り添う”ためには、感性を磨くことなのだと改めて気づかせていただいた。教育の質は、教育の感性の質だと心に刻んで、自分の心のアンテナを高くして、日々の教育活動にあたりたい。



△研修を終えて「学校教育にどのように生かすか」より  
【注】「川越市立小学校・中学校5年経験者研修」における「社会貢献活動体験研修」（8月16～18日）として2名の教員が来訪。K・H教諭の声を紹介させていただきました。

## 祝 二〇二一年クリスマス

『あちこちの町の町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになった。この方こそまきリストです。』

新約聖書 ルカの福音書二章十一節

## 私と一緒に喜んでくださーい！

『そして見つけたら、友だちや近所の人たちを呼び集め、「私と一緒に喜んでください」と言わないでしようか。』（新約聖書 ルカの福音書十五章九節）

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳  
① デイサービス利用中のSさんご家族より「住んでいるアパートの大家さんから契約更新の連絡なく、

このままでは別な所へ引越させねばなりません。福音の園さんへ入居できませんでしょうか」と相談された。「Sさんを思えばご希望にお応えしたいところですが、現在は満室で空きが出るという見通しも立ちませんので」と返答してきた。ある夜、夜勤者からBさん急変連絡が入り急行。午前三時死去された。前日まで普段通りの生活に一同ビックリ落胆。Sさん、デイサービス終了後そのまま入居された。入居日は「三十一日契約切れ」当月の1日だった。

② 毎週火曜日の『ピアノの会』。いつも講師（生涯学習音楽指導員）が「今日は何の日」から始める。「1917年のこの日に、渡辺はまさんが警視庁の自動車試験に合格して自動車免許を手にし、女性ドライバーの第1号となりました。では、渡辺はまさんは何県の方でしょうか?」。「栃木県です」と九三才のTさんが即答。「どうしてご存知でしたか?」「私の小学校の同級生でした。とても活発な、背の高い子でした」。

③ Mさんを九六才で看取って四日後に執り行われた告別式。式場で初対面の葬儀社社長さん。園に帰り、早速「細やかな葬祭に感謝」と礼状と「園便り」送付。数日後、担当者が来訪。「園便りにありましたバザーに協力させていただきたい。またバザー当日は売り子として参ります。思いがけない申し入れに「これでバザーの目的が達成された」と感謝した。毎月「園便り」を、「活動風景カラー」と共に編集印刷し関係者へ三百通発行。「大変ですね」とお声を掛けていただく。毎月途切れず発行する動機は日々の歩みから繰り広げられるドラマを記して「私と一緒に喜んでください」と申し上げたいからです。ここは喜びの園「福音（よきおとずれ）の園」です。

### 来訪歓迎

（第六回）サービス外部評価訪問調査・調査員2名様